

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2472800594
法人名	有限会社リリーフ弐千吉
事業所名	有限会社 弐千吉 長閑村
所在地 (電話番号)	度会郡度会町小萩610 (電 話) 0596-65-0868

評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 8 月 2 日(木)

## 【情報提供票より】(平成19年7月6日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.2人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋瓦葺造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000~44,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円~
敷 金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,200円		

### (4) 利用者の概要(7月6日現在)

利用者人数	6 名	男性 1 名	女性 5 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 86 歳	最低 77 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松阪厚生病院、寺内内科クリニック、田岡歯科
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>長閑な風景の一部として溶け込んだたたずまいである。古民家を利用し、昔を懐かしむことが出来る。ゆったりと時が流れ、利用者が安心して暮らせる場所がそこにある。又、居間からは田んぼや山並みが一望できる。このような環境の下で認知症の進行を予防し、安定した穏やかな生活が送れるように職員全体で支援をしている。</p>
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議も開催されており、家族による金銭の収支の確認されている。また生活環境の改善、介護計画の見直しもされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者及び職員は評価の意義・目的をよく理解をしており、今回の自己評価も全員で検討をしサービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>メンバーは、行政(役場福祉保健課)・地域の区長・家族会代表で、評価結果、具体的な改善計画を報告し、それに対する意見や支援をもらってサービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見苦情の無いことはよいことではあるが、小さな意見・苦情もすいあげ工夫も検討をして、より家族の不安をなくすように努めてほしい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の人々との関係を大切にし、地元の行事には積極的に参加し、当所での行事にも多数の方が参加されている。</p>

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民との交流を図りながら利用者を尊重した理念がある。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日頃から、管理者と職員が理念を確認しながら地域密着型サービスのあり方を話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での行事、会合に参加し、当所の行事にも参加の呼びかけをして地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己・外部評価の意義や目的、結果についてミーティングなどで周知している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回開催している。メンバーは行政(役場福祉保健課)、区長、家族代表で構成している。評価および改善計画等を報告、話し合いを行い意見などを取り入れ地域密着型サービスの向上に努めている。	○	時間をかけて老人会への加入を実現し、運営推進会議にも参加していただき、よりいっそうの交流を図っていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町福祉保健課と連絡を密にし、事業所の状況を報告するとともに情報の入手に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月新聞(のどか村)を発行し生活の様子等を報告している。他に個別に電話、面接時には職員が近況報告をしている。合わせて金銭の出納状況も確認しサインをもらっている。	○	金銭管理帳は1ヶ月ごとの支出の把握や家族への提示時にも分かりやすいので月ごとに締められることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部苦情申し立て機関を設置しているが、家族会でもなんでも話してもらえよう努めている。	○	重要事項説明書に申し立ての連絡先が記載されているが、部外者にはわからないので、長閑村の電話番号も一緒に記載してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員数も少なく、異動もないので馴染みの職員で利用者の支援を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内でも定期的に勉強会を行っており、外部の研修会にも参加している。研修ノートを作り、いつでも閲覧出来るよう周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会の研修会や行事に参加し、又近隣の事業所とは相互訪問や合同の行事を企画し交流を通じサービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人の状況、求めている事柄をよく聞きながら事業所を見学してもらっている。突然の入居の場合本人の不安を和らげるために職員がじっくりと話しを聞くなど安心感を持ってもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一 가족という思いで、年長者を敬い、昔おぼえた(身につけた)得意なもの、例えばわらべ歌やお手玉の作り方など教えてもらいながら一緒に過ごしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりと笑いを大切にしながら言葉や表情、態度などから推測し利用者の支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見を基に職員全員で意見交換を行ったうえで計画作成担当者が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に行っているが、状態に変化のあった場合は本人・家族とも話し合い見直しが行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師が常駐しているので、健康管理に対する的確な処置が可能である。外泊、墓参り等は家族に委ねている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所により主治医を協力医療機関に変更する場合は本人・家族の了解を得た上で前医よりの情報をもらい本人に不都合のないようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応についてはあらかじめ話し合いをもっているが、家族の思いの変化を常に注意を払い、その上で主治医、職員が方針に沿って対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を人として扱い、生活習慣を大切に尊厳を持った対応を心がけ、プライドにも気を配るよう職員にも周知している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活歴調査書を基に記入内容を理解し、利用者にあった支援が行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で作った農作物とこだわりの食材を使っている。又メニューは職員が作り、食事の配膳・片付け等は、出来る利用者が手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日(月・水・金)を決めて入浴をしている。特に要望があった場合(作業後・就寝前)の入浴には応じる体制をとっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケスタジオに行ったり、歌手のショーをみたり、又田舎で庭・畑も広いので草取りなどで気晴らしの支援をしている。又、ホーム内には利用者の好む音楽を流している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回程度散歩コースを決め、希望にあわせて散歩もしている。又、買い物や外食に出かけたり、花見・イチゴ狩り、花火見学などに出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はしていない。1人ひとりの行動パターンを把握しており、職員の見守りが徹底している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回(4・8・12月)夜間想定訓練を主に実施されている。地域の訓練も(年1回)職員・利用者も(車イス利用者も)一緒に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を毎日チェックしている。食事・おやつ(10時・15時)以外にもメモリ付きのタッパにお茶を入れ、各部屋にも常備し、いつでも水分がとれるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い民家で気持ちが落ち着き自宅にいるような心地よく安心して暮らすことが出来る。居間からながめる外の景色もよく、季節を感じる事が出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は鏡台、ダンスなど馴染みのものを持ち込みしている。		